

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	甲西町立下田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	25
児童数	65	69	75	56	56	64	5	390	

研究の概要

1. 研究主題

生き生きと学び、自分で課題を見つけ解決していく子どもの育成
 ~算数科を窓口基礎学力の定着により「わかる」「自信がもてる」子どもを育成するための指導法の工夫~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 全学年・算数
 ・昨年度までの校内研究で総合的な学習の時間に取り組んできたが、子ども達に基礎的基本的な力が不足していることがわかったため。
 ・児童にとって苦手意識の強い算数科で、少人数のきめ細かな指導を行い、理解を深め、達成感を味わわせたい。
 ・「できる」「わかる」が指導者にとって把握しやすく、指導に工夫を重ねやすい。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ：生き生きと学び、自分で課題を見つけ解決していく子どもの育成 ~算数科を窓口基礎学力の定着により「わかる」「自信がもてる」子どもを育成するための指導法の工夫~</p> <p>研究の見通し： 教員の研修を積み、教材・教具の開発を進めれば、子ども達は学ぶ喜びを知り自信をもって学習を進めていくことができるようになるであろう。</p> <p>教科担任制・習熟度別小集団学習などで、指導法の工夫改善を図り、発展的な学習・補充的な学習を取り入れていくことにより、個に応じた指導が充実し一層理解が深まるであろう。</p> <p>研究の内容・方法： 基礎・基本の確実な定着を図るための授業の各段階における教材の開発 ・子どもが意欲的に取り組める教材作り、提示の仕方の工夫 少人数授業における指導方法の工夫・習熟度別授業の導入 ・低学年から少人数学習の良さを生かす授業のあり方を検討</p>
--------	---

評価の改善
* 上記 ~ を授業実践をもとに全体研究の場で深める。

平成16年度

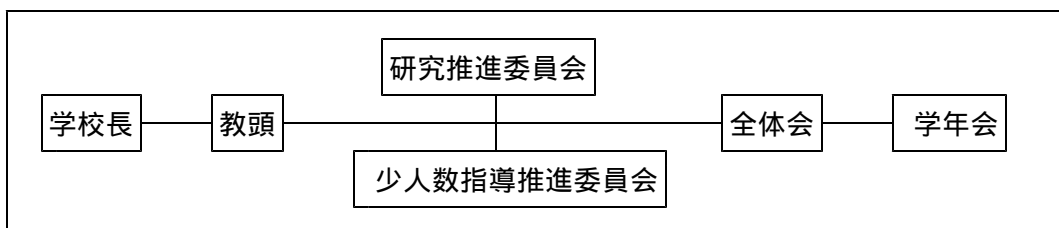
テーマ：生き生きと学び、自分で課題を見つけ解決していく子どもの育成～算数科を窓口基礎学力の定着により「わかる」「自信がもてる」子どもを育成するための指導法の工夫～

研究の見通し：
教科担任制・習熟度別小集団学習などで、指導法の工夫改善を図り、発展的な学習・補充的な学習を取り入れていくことにより、個に応じた指導が充実し一層理解が深まるであろう。
教育課程の練り直し、評価規準の研究開発、個別指導計画の活用により指導と評価の一体化が可能となり、一層学習内容の定着が図れるであろう。

研究の内容・方法：
基礎・基本の確実な定着を図るための授業の各段階における教材の開発
少人数指導における個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
指導と評価の一体化を図る授業の工夫改善
発展的学習、補充的学習など個に応じた指導のための教材開発
単元計画の各段階に応じた指導体制の工夫改善
「確かな学力」の向上のための評価活動の工夫
* 上記 ~ を授業実践をもとに全体研究の場で深める。

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

算数アンケートの結果					
学年	算数がすき	ふつう	算数がきらい	算数が一番すき	
1年	6月	*	*	*	
	1月	22人 33.8%	35人 53.8%	8人 12.4%	8人 12.3%
	6月	12人 18.7%	39人 60.9%	13人 20.4%	
1月	27人 39.7%	38人 55.9%	3人 4.4%		
2年	6月	23人 31.5%	40人 54.8%	10人 13.7%	6人 12人 16.2%
	1月	27人 36.5%	42人 56.8%	5人 6.7%	
	6月	9人 21.4%	29人 69.0%	4人 9.6%	
3年	6月	16人 29.6%	31人 57.4%	7人 13.0%	4人 8人 14.8%
	1月				
	6月				

5年	6月	9人 18.8%	32人 66.7%	7人 14.5%	2人 4人 7.1%
	1月	17人 30.4%	31人 55.4%	8人 14.2%	
	6月	12人 19.4%	34人 54.8%	16人 25.8%	
6年	1月	13人 20.3%	39人 60.9%	12人 18.8%	2人 3人 4.7%
	6月				

・子ども一人ひとりの思考やつまづきが分かり、基礎基本の学習の徹底が図れ、「わかる」「楽しい」授業の工夫を考えることができるようになり、算数が好きな子が全体的に増えてきた。
 ・児童にとって、よりわかる授業が展開できるようになった。
 ・操作活動がさせやすい。(一人ひとりに活動の場が設定できる。)
 ・指導者が児童のことを考えて、教材研究を深くするようになった。

2. 今後の課題

- * 少人数授業を実施していくにあたって
 - ・教師間の話し合い、打ち合わせの時間が取りにくい。
 - ・グループ分の教材・教具の準備時間が取りにくい。
- * 指導上の工夫について
 - ・効果的なグループ編成について試行錯誤中である。
 - ・個に応じた教材の開発が不十分である。

学力等把握のための学校としての取組み

- * 算数アンケート
 - 目的：全学年の算数科についての意識調査
 - 内容：算数科の興味・関心、好きな単元、感想
 - 時期：1月中旬
- * 算数学力テスト
 - 目的：各学年の学力、つきたい力を知る
 - 内容：5, 6年生・・・県学力診断テスト利用
1～4年生・・・自作テスト
 - 時期：3月初旬

前年度と比較する。平成15年度のみ6月初旬にも実施し、年度末と比較を行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

日時	校 内	地 区 協 議 会
6/11	・ 2年1組、6年 少人数授業の学習参観	
6/18	・ 6年授業研究会(全体会) 習熟度別クラス編成	
7/16	・ 4年 少人数授業の学習参観	
8/1		・ 第2地区教育講演会 実践発表
10/10	・ 5年授業研究会(学年部会) 均質クラス編成	

10/16		・公開授業2年「かけ算」 TT 均質クラス TT
10/18	・2年2組 少人数授業の学習参観	
10/31	・4年授業研究会(学年部会) 課題別クラス編成	
11/19	・3年授業研究会(全体会) チャレンジ定着学習 均質クラス編成	
1/30	・1年授業研究会(学年部会) 均質クラス編成	

* 研究成果を紀要にまとめる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無